

映像ゼミナール2007 –ヨーロッパ映画における移民たち–

Part 1.

『愛より強く』 *Gegen die Wand* [監督:ファティ・アキン/ドイツ (2004)]

13:30～ 導入解説

13:45～ 上映

原題は「壁へ向けて」。目の前の壁、デッドエンド、行き止まりに激烈なスピードで激突し、自らの命を絶とうとした男ジャイド。ハンブルクのトルコ系移民労働者の家庭でイスラムの女性として生きることを強制され、自由もなく未来もないと絶望してリストカットした若きジベル。二人は、搬送された病院で知り合う。ジベルは身の自由を得るために一計を案じ、トルコ系の男性となら厳格な両親（と兄！）も結婚を許すだろうともくろんで、カヒットに偽装結婚をもちかける。家を出れば、そこには自由があるからだ。トルコ系ロマ（ジプシー）の音楽に導かれて展開するヴィヴィッドな映像。愛と自由に生きるがゆえに絶望し、その絶望の空虚を癒す愛を見つけると同時に引き裂かれることになる男女。この映像には移民問題を背景として、差異のなかでしか生きられない存在の、その絶えられない軽さと重さが同時に刻まれている。

ファティ・アキン(Fatih Akin)は1973年8月25日、ハンブルク/アルトナ生まれ。ハンブルクの造形芸術単科大学の映像メディア・コミュニケーション学科を卒業後（2000年）、映画産業に本格的に参入する。2000年に『7月に(Im Juli)』で人気俳優のモーリッツ・ブライプトロイを主人公に、ハンブルクとイスタンブールを結ぶロードムービー風の恋愛劇を描き出すとともに、厳しい批判を受けるも、興行的に成功を収めた商業劇場映画第三作の『ソリーノ(Solino)』で、イタリア系の移民労働者の家族像を提示。2004年に『愛より強く(Gegen die Wand)』で彼は、ベルリン国際映画祭最優秀賞（金熊賞）をはじめ、ドイツ内外の複数の映画祭で高い評価を得ている。

Part 2.

『隠された記憶』 *Caché* [監督:ミヒャエル・ハネケ/ フランス, オーストリア, ドイツ (2003)]

15:50～ 導入解説

16:05～ 上映

インテリ人気キャスターのジョルジュ（ダニエル・オートウイユ）と、彼の妻であり、出版社で働くキャリアウーマンのアン（ジュリエット・ビノシュ）は一人息子のピエロと裕福に暮らしていた。そんなある日、差出人不明のビデオテープがこの幸せな一家を正体不明の不安と恐怖に陥れる。最初はビデオテープにジョルジュ家の外観が日夜長時間に渡って撮影されていただけであったが、徐々にプライベートな画像や、鳥や人が血を吐いて死んでいるという不気味な絵がビデオテープと共に送られてくるようになる。誰が何の目的で...？やがてジョルジュはある遠い記憶を呼び覚ます。記憶の底に隠された‘無邪気な悪意’が引き起こしたある出来事とは...？そして、息子のピエロがいなくなった。

ミュンヘン生まれのオーストリア人監督ミヒャエル・ハネケは『ピアニスト』（2001年）や『ファンシーゲーム』（1997年）などの代表作品で日本でも独自の地位を確立し、その刺激的、挑発的な作風で世界的に知られるようになった。2005年に「cache」という原題で世に送り出した「深層心理」サスペンスは、第58回カンヌ国際映画賞3部門（最優秀監督賞、国際批評家連盟賞、人道賞）、第18回ヨーロッパ映画賞5部門（作品賞、監督賞、主演男優賞、脚本賞、編集賞）を受賞することになる。